

3年 美術 シラバス

1 美術科の目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を養う。

2 教科における重点目標等

- (1) 意図に応じて自分の表現方法を追求し、創造的に表せるようになる。
- (2) 豊かに発想し構想を練り、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めよう。
- (3) 美術の想像活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにしよう。
- (4) 鑑賞会やカードにおいて、根拠を持って(美術の言葉を使って)発言し、話し合い、その作品の良さを味わおう。

3 学力を向上させる方法

(1) 計画を立てて段取りを考えよう。

例えば、この作品は4時間で仕上げようという場合、今日はここまでやろう、来週はあそこまでやろうと考えながら制作しましょう。

(2) 規律ある態度を身に付けよう。

「準備・後片づけをしっかりと行う」「忘れ物をしない」

提出物や持ち物を準備することは制作をスムーズにし、段取りよく作業が出来ます。

(3) 最後までやり通す力を身に付けよう。

作品を完成させることを通して成就感を味わうことができます。何事においても最後までやり通す力はとても大切です。一生懸命に自分らしい表現を追究しましょう。

(4) 感性を養おう(材料を集めておこう)。

身の回りの物に関心を持ち、諸感で、美しいもの、面白いものを意識し、普段から、制作に使えるような材料を集めておきましょう。(様々な廃材、きれいな紙、毛糸、布 など)

評価の観点	観点の内容	評価の方法
知識・技能	対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。意図に応じて自分の表現方法を追求し、創造的に表している。	アイデアスケッチ、プリント、作品、制作の様子等
思考・判断・表現	自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、機能性と洗練された美しさとの調和、美術の働きなどについて独創的・総合的に考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	アイデアスケッチ、プリント、作品、完成度、制作の様子等、授業中の観察、鑑賞プリント等
主体的に学習に取り組む態度	美術の創造活動の喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	出席状況、授業中の観察、提出物、忘れ物、鑑賞プリント等

5 家庭学習の仕方

- (1)授業時間で必要な資料を自主的に用意しておきましょう。
- (2)アイデアスケッチや下描きのための構想をしておくといよいでしょう。
- (3)手先を器用に思う通りに動かせるようになるには、好きなイラストを描いてみる、空き箱を分解してまた組み立てるなど、とにかく自分で手を動かすことが大切です。
- (4)休日に美術館に行く、ネットで検索するなどいろいろなジャンルの芸術作品を鑑賞してみましよう。

6 年間学習予定

学期	単元名	学習のポイント
1 学期	オリエンテーション	○今後の学習活動を充実したものにするために、学習ルールや美術室の利用の仕方、持ち物などを学びます。
	フィーリング アート 「跡」 光のランプシェード	○「跡」＝「何かがそこにいた・起こった気配」をイメージし、単純化や省略、強調、構図、や背景などの効果を考え、創造的な構成を工夫しながら制作していきます。 ○互いの作品を鑑賞し合い、表現の意図や工夫について話し合います。 ○光がつくり出す空間の美しさを基に、使う場面などから主題を生み出し、美的感覚を働かせて光の色や影の効果など調和のとれた洗練された美しさなどを総合的に考えて制作します。 ○材料や用具などの特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しを持って創造的に表現します。 ○互いの作品を鑑賞し合い、表現の意図や工夫について話し合います。
2 学期	どこまで修復すべきか	○美術作品に受け継がれてきた美意識などから、伝統や文化のよさや美しさを感じ取り愛情を深めるとともに、美術文化の継承と創造などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めます。
	自我像 -自分をみつめて-	○自分の心の中をストレートに見つめて主題を生み出し、形や色彩、描くものや配置などの効果を考え、意図に応じて自分の表現方法を追及して創造的に絵で表現していきます。鑑賞会では、作品それぞれのよさや特色を味わい、物語の背景やそこに工夫されている造形性や創造性を感じ取ります。
3 学期	思い出の印を彫ろう	○使う場面、思いなどから主題を生み出し、形や材質を考え、意図に応じてデザインします。 ○一つの立体からイメージした立体を彫り出すための基本的な彫り方を身につけ、さらに自分なりの彫り方を考えたり、工夫したりすることができる力を身に付けます。 ○用途に合わせ、限られたスペースの中に、快い配置や形や、大きさでデザインできる力を身に付けます。